

● 3月選評

小島なお

・ 佐々木みつる (東京都)

僕にだけ 都合の良いやしろ

僕だけを見てくれる神様。僕の願いだけを優先的に叶えてくれる神様。信仰を持たずして神頼みする人はみな、心の土地に僕だけの社を建立している。

・ 鯨井鴉舅 (千葉県)

可愛いと思うと

途端にいっぱい出てくる

勿忘草みたいなの

可愛いという言葉に否応なく含まれてしまうかすかな蔑みのニュアンス。

「Forget-me-not」小さく可憐な青い叫びがいつせいに花ひらく。

・ 氷丸 (茨城県)

魚の世界に

齟齬はない

冷たい海に、齟齬は、ない

齟はかみ合わないこと、齧は食い違うこと。冷たい海に棲む魚にとって、個体の意思は海の意味そのもの。個が海を超えるとき、死が来る。

・ ゆうか (東京都)

ガスマスク

つけた山羊いた

実験で

戦争これは

ありえないから

語順の違和。整頓されない感情からうまれる整頓されない言葉。戦争は歴史のなかで何度でも繰り返されながら、何度でも初めてのありえなさを突きつける。

・小林紅石（埼玉県）

テレビは内戦伝えてるけれど

問題はドアノブの軽さ

遠くの戦争を、近くで見せてくれるテレビに麻痺している私たち。戦争を当事者として語り、問題を提起する。いとも簡単にドアノブに手を掛けて。

・三井（沖縄県）

「信号機、

揺らいではだめ

揺らいではだめ」

高いところで「止まれ」や「待て」や「行け」を伝えつづける仕事。たとえば日暮れどき、たとえば深夜。信号の自我が濃くなる時間を目撃せよ。

・早川 のり（愛知県）

ポーカロイド超えた夜遊び

人間の音域を圧倒的に飛び越えるポーカロイドの声帯。徹底的な、それゆえに無慈悲な夜の遊び。YOASOBIをもじりながら、今こそ夜を遊びたい。

・鰯山陽大（山口県）

つめたいままの浴室に座りこむ

赤カビの赤があつたかい

赤カビの名前は「ロドトルラ」。酵母菌の一種で皮脂や石鹸かすを栄養に繁殖をする。赤は活動の赤。浴槽は生命活動をする人とカビの共存空間と言える。

・レモンマートル（北海道）

左利きが

右利きのふりをするときの

少しとぼけた

緑の絵の具

左利きだって一向に構わない。でも、多数に属しているほうが楽だし、面倒が少ない。よく使う、便利な緑の絵の具のように心のなかほどを少し窪ませて。

・藤田 ゆきまち（三重県）

ピラフって

ちよつとした春のパレード

ピラフの語源はPALOVOSで、ネギ、ニンジン、肉、脂、塩、水、米の頭文字を表す。バターを纏った具材が浮かれた饗宴をするピラフという春のお祭り。